

方言談話における対称詞の使用量の地域差

山 本 空

1 はじめに

本稿では方言談話における対称詞の地域差について述べる。

対称詞とは聞き手を示すことばである。日本語の対称詞について鈴木（1973）は「親族名称・地位名称など一括して、（中略）話し手が相手を示すことば」と述べている。対称詞の例としては「あなた」「おまえ」等の二人称代名詞があげられるが、日本語にはそれ以外にもさまざまな対称詞が存在する。それらは聞き手の属性や年齢によって使い分けられており、鈴木（1973）によると、目上の人物には二人称代名詞を使用せず、「お父さん」「にいさん」等の親族名称で聞き手を呼ぶもの（以下「親族名称類」）、聞き手の名前を呼ぶもの（以下「名前類」）、「先生」等職名で聞き手を呼ぶもの（以下「職名類」といった、二人称代名詞以外の対称詞（非代名詞の対称詞）を使用するとされる。

また庵他（2001）、日本語教育学会編（2005）によると、日本語には文中の要素が省略されやすいという特徴があり、対称詞についてもその特徴が当てはまる。日本語において対称詞は対比や総記（排他）などの特別な意味を付加する場合ではない限り省略されることが一般的であるといえる。

一方、実際に各地方言の談話資料を分析すると、(1)のように、省略可能であるにもかかわらず使用されている対称詞が多数みられる。

- (1) A：ダエ ユーンカナ ソノー シキノ ウツリカワリヤトカ、(何 [と] いうのかね その 四季の 移り変わりだとか、)
 B：ハン ハン (はあ はあ)
 A：ソヤナ カンジカ^ナ (そういう 感じがね)
 B：ン (うん)
 A：マツリカ^カ キタテ キトンカトモ、(祭りが 来たって 来ているのかとも、)
 B：ン ソーヤ (うん そうだ)

(48)

A: ソヤカラ モー ショーカ[°]ツガ キタッテ アンタ (だから もう 正月
が 来たって あなた)

B: ンー (うん)

A: ヒトツモ カンキョー ワカヘンカ[°]ナ モー。(ひとつも 感興 [が] わ
かないよ もう。)

(兵庫県・アナタ類・独立用法)

(1)にみられる二人称代名詞「アンタ」は文中に係り先がなく、独立語として用いられている。のちに述べるが、こうした省略可能な対称詞の大半が二人称代名詞である。

本稿では、国立国語研究所編『全国方言データベース 日本のふるさとことば集成』の談話データを用いて、実際の方言談話において対称詞がどのように用いられているかを明らかにし、その地域差を明らかにすることを試みる。

2 分析資料と用法の分類

以下の分析に用いる談話データは、国立国語研究所編『全国方言データベース 日本のふるさとことば集成』(以下『ことば集成』)である。『ことば集成』は、1977～1985年に全国48地点(各都道府県1地点。沖縄のみ2地点)において収録された当時の高年層による談話資料である。各都道府県につき5地点ほどの調査対象地点があり、その中から1地点、30分程度の談話データを刊行している。本稿では沖縄の2地点を除く46地点を分析対象とする。

ただし、30分程度といいつつも談話データの長さは地点によって開きがあり、最長の岩手県と最短の鳥取県では40分以上の差がある。また話者数に関しても、男女各1名ずつという最も少ないペアから、男女合わせて7名という談話データまであり、一定ではない。そして、調査地点も各都道府県1地点ずつの収録であり、この談話データがその都道府県を代表するというわけではない。このような制限はあるものの、すべての都道府県分の高年層男女の談話データがそろっていること、話者の年齢・出自、また大まかな話題など条件がある程度統一されていることから、本稿では『ことば集成』を全国比較のための談話データとして用いる。

次に、対称詞の用法について整理する。本稿では対称詞の用法を3つに分類する。

1つめは、文中に係り先がなく、対称詞が独立語として用いられている「独立用

法」である。

- (2) A: トコロカ° ソノコロ オメアー、フロニ アカリヤ ナイワエ。(ところが その頃 あなた、風呂に 明かりは ないよ。)

(北海道・オマエ類・独立用法)

- (3) B: ホンデ アンタ ムカシ ナー オツケモンデモ ゴツツイ ヒャッポンヤ ニヒャッポン ツケルヤロ、(それで あなた、昔、ねえ、お漬物でも たくさん 100本や 200本 漬けるでしょ、)

(兵庫県・アナタ類・独立用法)

2つめは、対称詞が主語・目的語・連用修飾語として用いられ、係り先が述語になる「連用用法」である。連用用法の対称詞はさらに省略可能な用例（以下「省略可能な連用用法の対称詞」）と省略不可能な用例（以下「省略不可能な連用用法の対称詞」）が存在する。

- (4) [Aが歌ってくれと他の話者に要求されて歌った後]

B: オマン ナカナカ (おまえ なかなか)

A: エッ |笑| (えっ |笑|)

B: ジョーズチャ ジョーズチャ。(上手だ 上手だ。)

A: ジョーズチャ チ |笑| (上手だ って |笑|)

(高知県・オマエ類・省略可能な連用用法)

- (5) B: ソレデー サンネンゴ° ロマデ ジブンラ イッシヨニ ダイーチイ イタケドノ、ダイニエ アンタ カワリナハッタハカ。(それで 3年頃まで自分ら 一緒に 第一へ 行ったけどね、第二へ あなた 替りなされたから。)

(和歌山県・アナタ類・省略可能な連用用法)

- (6) B: ハー キタ オマン キテモラッタ (はあ 来た あなた [に] 来てもらった)

(新潟県・オマエ類・省略不可能な連用用法)

(50)

- (7) B : ンー ンー ンナ メージヤ。 アンタ ダンプ ミズ ミ ソージ セー
ーヘンヤロ? (んー ンー だったら 明治だ。あなた ランプ ××
× 掃除 [を] しない [=しなかった] だろう?)

(兵庫県・アナタ類・省略不可能な連体用法)

3つめは、対称詞が連体助詞をとまなうなどして連体修飾語として用いられる「連体用法」である。

- (8) C : オマエ トコニワ マタ ウシバッカージャーネー ヤサイモノモ ツク
ラッシャーケン (あなた [の] ところには また 牛ばっかりではなく
[て] 野菜ものも 作られるから)

(島根県・オマエ類・連体用法)

- (9) B : ホント アンタノ オカゲ ト オモー ヤッポ。(ほんとう [に] あな
たの おかげだ と 思う やはり。)

(山口県・アナタ類・連体用法)

以下では対称詞の用法を上記のように分類して分析を行う。

3 形式の地域差

ここでは、各地方言の二人称代名詞の形式の地域差について整理しておきたい。前述のとおり、省略可能な対称詞の大半は二人称代名詞である。そのため、ここでは二人称代名詞の地域的なバリエーションをおさえておく。二人称代名詞の形式の地域差の整理は国立国語研究所編『方言文法全国地図6』(以下GAJ) 333・335・336図「あなたの傘」(333図: 目上の人/ 335図: 近所の知り合いの人/ 336図: 親しい友達)を用いる。GAJは1979~1982年に全国807地点でその土地生え抜きの高年層男性を対象に文法事象に関する267の項目の調査を行い、1989~2006年に刊行された言語地図である。本稿では二人称代名詞に関わる333・335・336図「あなたの傘」を用いる。この3図はそれぞれ場面設定が異なり、以下のように設定されている。

- 333 図…土地の目上の人に向かって、非常に丁寧に言う（B 場面）
- 335 図…近所の知り合いの人に向かって、やや丁寧に言う（A 場面）
- 336 図…親しい友達に向かって言う（O 場面）

GAJ を用いて待遇差による二人称代名詞の形式の地域差を分析した彦坂（2011）は「東西地域別に古態のワレ・オヌシ類の周辺分布に、新しいオマエ・アナタ類の周辺の分布がかぶさり、これに新興のオタク・称呼による「その他」の類が中央に見られる歴史が考えられた」としている。

一方、後に取り上げる談話データの二人称代名詞は、大半がアナタ類とオマエ類⁽¹⁾である。そこで、ここではアナタ類とオマエ類のみに着目し、GAJ の 333・335・336 図「あなたの傘」（333 図：目上の人／335 図：近所の知り合いの人／336 図：親しい友達）を整理すると表 1 のようになる。

表 1 GAJ におけるアナタ類とオマエ類の地域差

	九州		四国		中国		近畿	中部			東北	
	長崎 鹿児島	長崎 鹿児島 以外	徳島 高知	香川 愛媛	広島	広島 以外		北陸	東海	甲信越	関東	南奥羽
目上	▲	●	▲	●	●	●	●	●	●	▲	●	▲
近所の知り合い	▲	●	▲	●	●	●	●	●	▲	▲	●	▲
親しい友達	▲	▲	▲	▲	●	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲

●アナタ類 ▲オマエ類

表 1 をみると、東海地方以東は、アナタ類を使用する地域もあるが、その多くはオマエ類を使用している。一方、北陸地方以西は一部オマエ類のみ使用する地域はあるものの、大半はアナタ類が優勢な地域である。ここから、GAJ においては東海地方と北陸地方を境に、アナタ類とオマエ類の東西差があることがわかる。

GAJ の調査は二人称代名詞の形式をみるのが目的であるため、非代名詞の対称詞は「その他」にまとめられている。333 図における「その他」の用例は合計で 133 例みられ、その多くは東日本にみられた。一方で西日本では先述のとおりアナタ類をはじめとする二人称代名詞が使用されている。つまり、目上の人物には二人称代名詞を使用せず、非代名詞の対称詞を用いるという鈴木（1973）の指摘は、主に東日本方言において適用される特徴と考えられる。西日本ではアナタ類に代表される

待遇度の高い二人称代名詞を用いており、対称詞の形式の選択には地域差があると思われる。ただし、GAJの調査結果は、二人称代名詞の形式を聞くという調査法上の理由によって、実際以上に二人称代名詞が回答された可能性がある。したがって、実際の会話ではどのような状況であるかは談話資料から分析する必要がある。

先に「談話データの二人称代名詞は、大半がアナタ類とオマエ類である」と述べたが、『ことば集成』には非代名詞の対称詞もあらわれる。それらを以下のように分類して、具体例を用法ごとに挙げる。

- ①名前類（Aさん等）
- ②親族名称類（おばさん、おじいさん等）
- ③職名類（先生等）

まず、名前類の用例には以下のようなものがある。

(10) [直前にAが発話した後で]

B：マー Aサンカ° カドマツカ° ナクナッチャッタ テ ウレーテイラレル ッテ ユー コトワ ヨク ワカンケンドヨ ジダイノ ナカ°レダソイツラーモ ヘー ショーカ°ネーヤナ。(まあ Aさんが 門松が なくなっちゃった と 憂えていらっしやる という ことは よく わかるけれどもね 時代の 流れで それらも もう しかたがないね。)

(神奈川県・名前類・省略可能な連用用法)

- (11) A：Bツァンワ タガエ ヤマサ ノボッタ ゴド アンノスカ。(Bさんは 高い 山に 登った こと [は] あるんですか。)

(宮城県・名前類・省略不可能な連用用法)

- (12) A：マー ンー、オショーカ°ツ スキ°タラ アー、セツブンワー ムカシワ マー、Cサンケ°ー ドー ヤッタッタ？ (まあ うん お正月 [が] 過ぎたら ああ 節分は 昔は まあ Cさんの家は どう やっていた？)

(北海道・名前類・連体用法)

- (13) B：アレワ Aサン ドヨーギトジャケン。(あれは Aさん 土用祈祷だから。)

(愛媛県・名前類・独立用法)

親族名称類には以下のような用例がある。

- (14) A：ヤッパ イマデム スッ ショルカエ、オバサン。(やっぱり 今でも × × しているかね、おばさん。)

(大分県・親族名称類・省略可能な連用用法)

- (15) A：ホイカラ オバンモ ヤッパー コドモニヤ ヤッパー メグマレチヨルフ。(それから おばさんも やっぱり 子どもには やっぱり 恵まれているよ。)

(大分県・親族名称類・省略不可能な連用用法)

- (16) B：デデ バーサンギャン マンマエジャッデノー。(×× [線路は] おばあさん [=C] のうちの 真ん前だからね。)

(熊本県・親族名称類・連体用法)

- (17) B：ホイテ オトツチャン ヒヤクモ ツクッテオイトネ ワ ワラズ ハイテモテ タライデネ (そして おとうさん [=A] 100 [足] も 作っておいてね × わらじ [を] はいてしまって 足りなくてね)

A：ウン (うん)

B：ス ツクラニヤ シゴトネ イカレンシ (× 作らなくては 仕事に行けないし)

A：ウン (うん)

B：ヨナベニ ヨー ツクッテ (夜なべで よく 作って)

A：ウン (うん)

B：デテイッタ コト アルゾネ。([仕事に] 出て行った こと [が] あるわ。)

(石川県・親族名称類・独立用法)

職名類には以下のような用例がある。なお、職名類には、省略可能な連用用法の

用例はみられなかった。

- (18) B：センセーモ ズイブン ゴブサタモーシテ スミマセン。(先生も 随分御無沙汰申して すみません。)

(和歌山県・職名類・省略不可能な連用用法)

- (19) B：アノジブン リン ナルマデニ、センセラ ジブン モ カネダッタデスカ Aセンセラ。(あの時分 鈴 [が] 鳴るまでに、先生たち [の] 時分 [は] もう 鐘でしたか。A先生たち。)

(和歌山県・職名類・連体用法)

- (20) B：オー。アノジブンノ タコー センセー ナンデスデノー、キマッテマシタノ。(おお。あの時分の 凧 [は] 先生 あれですねえ、決まっていたね。)

(和歌山県・職名類・独立用法)

二人称代名詞、非代名詞の対称詞の用例数を都道府県別に整理すると、表2のようになる。

二人称代名詞は、アナタ類とオマエ類の使用地点が多い。GAJでみられたように、アナタ類は西日本に、オマエ類は東日本にあらわれる傾向が認められる。「その他」の形式として、三重県に「アゾ」、大阪府に「オタク」、山口県に「ワレ」、高知県に「オンシ」がみられたが、いずれも用例数は多くない。彦坂(2011)は、周辺部に「その他」の形式が分布していることに着目しているが、実際の談話において使用される形式は、ほぼオマエ類・アナタ類であるといえる。

非代名詞の対称詞のうち名前類・親族名称類は全国に分布している。職名類の形式はすべて「先生」であったが、使用地点は限られている。そもそも職名で呼ぶような関係性の話者が選ばれていないためであろう。

表2によれば、用例数が多いのは二人称代名詞の独立用法であることがわかる。4では、表2に基づき、対称詞の用法ごとの使用量に着目して分析する。

表2 『ことば集成』における対称詞の地点別用例数(1)

番号	都道府県	代名詞									非代名詞						収録時間					
		アナタ類			オマエ類			その他			名前類		親族名称類		職名類							
		独立用法	連用用法 可	連体用法 不可	独立用法	連用用法 可	連体用法 不可	独立用法	連用用法 可	連体用法 不可	独立用法	連用用法 可	連体用法 不可	独立用法	連用用法 可	連体用法 不可						
1	北海道				6								4	3						37分06秒		
2	青森県			3		3								2							36分26秒	
3	岩手県							2	2												46分52秒	
4	宮城県				1			1						1							22分04秒	
5	秋田県							1	5												25分49秒	
6	山形県	1				1			1						1						26分48秒	
7	福島県																				23分23秒	
8	茨城県			1														1			38分50秒	
9	栃木県												2	2	1						34分43秒	
10	群馬県												1	1							39分26秒	
11	埼玉県																				37分59秒	
12	千葉県					19			9								1	1			37分51秒	
13	東京都	2																			34分51秒	
14	神奈川県	2		1								2	1	3		1	1				34分43秒	
15	新潟県	4	1	1		19		2	1								1				36分35秒	
16	富山県	29		1		2															21分58秒	
17	石川県	21	1	1		1									9	1	1				21分26秒	
18	福井県			1								2									23分07秒	
19	山梨県																				26分36秒	
20	長野県																1				18分38秒	
21	岐阜県				1				1												14分05秒	
22	静岡県					3										1					23分43秒	
23	愛知県					3		4													33分28秒	
24	三重県										2	4									28分13秒	
25	滋賀県					20								1							40分02秒	
26	京都府												1	8				1			24分19秒	
27	大阪府	6		1	1					1	2						1	2			28分12秒	
28	兵庫県	13		4	1	2															30分30秒	
29	奈良県	1													1						33分39秒	
30	和歌山県	4		10					1				2	1					1	2	1	31分45秒
31	鳥取県								1													05分28秒
32	島根県					1		3	2													35分12秒
33	岡山県	1				1																27分36秒
34	広島県	4		2	1								1		1							38分08秒
35	山口県	22	1	7	1						1				1		1					37分09秒
36	徳島県					1	1															36分45秒
37	香川県	29		2	3								1				1					35分56秒
38	愛媛県	1				5			2				4		1	1						31分48秒
39	高知県					23	1	4	2		1											33分39秒
40	福岡県	47		3	3																	23分37秒
41	佐賀県	5	3	7	10																	20分53秒
42	長崎県				3	2																24分32秒
43	熊本県	1							2								6	1				21分06秒
44	大分県	30		3	1	21		1							7	2	1	1				20分58秒
45	宮崎県	13	1	7	7				5													22分36秒
46	鹿児島県																					34分29秒

可 = 省略可能 不可 = 省略不可能

4 用法ごとの使用量の地域差

ここでは、表2に基づき、『ことば集成』の談話データにあらわれる対称詞について、用法ごとの使用量に着目してその地域差をみていく。

4-1 独立用法

まず、独立用法の対称詞について整理する。

談話の収録時間は地点によって異なるが、独立用法の用例数のおおまかな傾向をつかむため、用例数を 29～47 / 13～23 / 1～9 / なしの4段階に区分して、図1を作成した。

東海地方以東を東日本、北陸地方以西を西日本とすると、独立用法のアナタ類は東日本ではほとんどあらわれておらず、富山県あたりから用例が多くあらわれている。また、東日本は独立用法の二人称代名詞がみられない地点が多い。一方で、西日本は独立用法の二人称代名詞がみられる地点が多く、特にアナタ類において顕著である。ここから西日本で使用されるアナタ類において二人称代名詞の独立用法が発達したと考えられる。

さらに、西日本にはオマエ類にも独立用法の用例がある程度みられる。また、独立用法の非代名詞の対称詞がみられる地点は14地点あり、そのほとんどが独立用法の二人称代名詞がみられる地点であった。特に、比較的多くの独立用法の非代名詞の対称詞がみられる石川県・大分県は、どちらも独立用法の二人称代名詞が盛んに用いられる地域であった。

(21) B: ホイテ イマ アンター (そして 今 [も] あなた)

A: ウン (うん)

B: ア オマ ミンナ アンター ヤマエデモ ヤッパ キノ アノ ナワノ
ホア キオ オコシカ° ヨイシー (× ×× みんな あなた 山へでも
やっぱり 木の あの 縄のほうが 木を 起こすの [に] は いいし)

A: ソヤ ソヤ (そうだ そうだ)

B: アノ ビニルミタイモナネーエ (あの ビニールのようなものはね)

A: ウン ウン (うん うん)

B: バーチャンガ° ネーエ ヤマエ イッテネ (おばあちゃん [=B] がね 山
へ 行ってね)

A：ウン（うん）

B：ククッテン オトッチャン（括ったのよ おとうさん [= A]）

（石川県・親族名称類 / アナタ類・独立用法）

(22) [話者Cが家を新築したという話題]

B：ソリヤ ソーじゃ。モー オマイ アン マエン イエナラ オバン オラルラセンデー アレ。（それは そうだ。もう あなた あの 以前の
家なら おばさん [甲問客は] いられやしないよ あれ [は]。）

（大分県・親族名称類 / オマエ類・独立用法）

西日本では、アナタ類において発展した独立用法の二人称代名詞の用法が、オマエ類や非代名詞の対称詞にも適用されるようになったものと考えることができる。

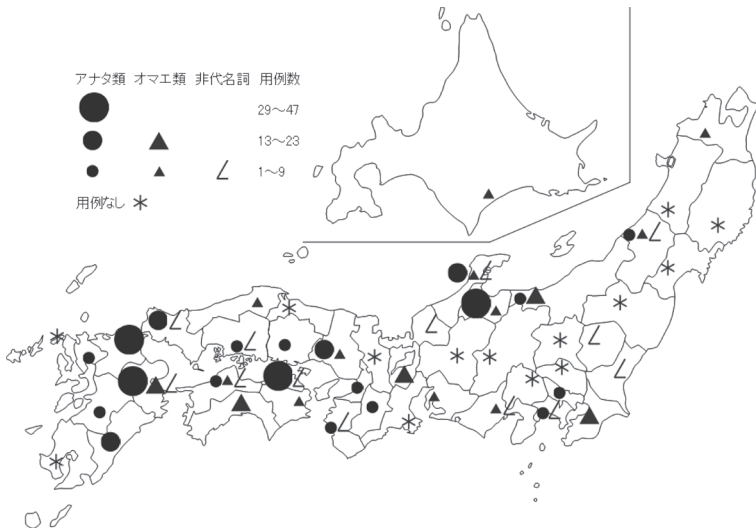


図1 独立用法の対称詞の用例数

4-2 連用用法

連用用法の対称詞を省略可能か不可能かによって分類し、それぞれを地図で示すと図2・図3のようになる。図2は用例数を1~3/なしの2段階、図3は用例数を10/1~7/なしの3段階に区分した。

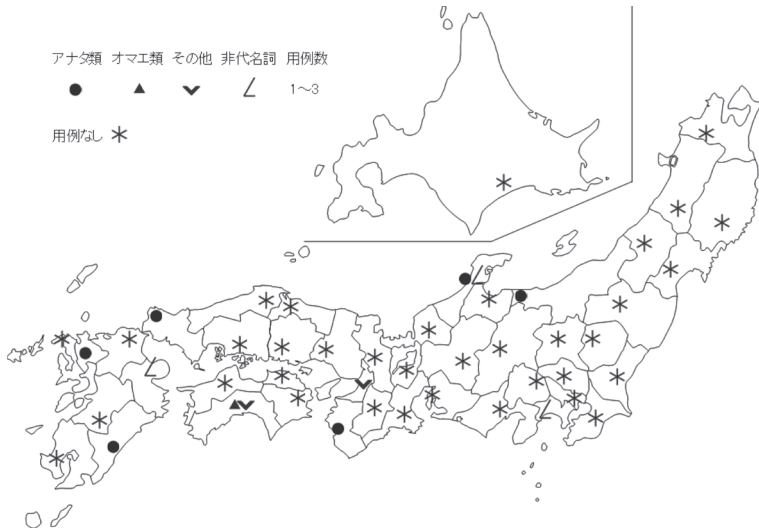


図2 省略可能な連用用法の対称詞の用例数

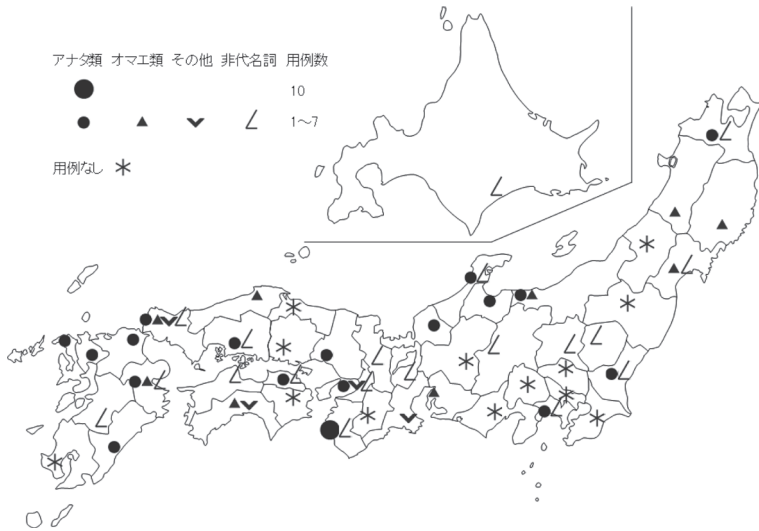


図3 省略不可能な連用用法の対称詞の用例数

省略可能な連用用法の二人称代名詞の用例はほとんどみられず、独立用法の二人称代名詞が多くみられる地点にわずかにみられるのみであった。省略可能な連用用法の非代名詞の対称詞がみられた4地点についても、すべて独立用法が存在する地

点であった。

一方で、省略不可能な連用用法では、西日本に多少用例の多い地域がみられるものの、おおむね全国的に偏りがなく、二人称代名詞か非代名詞の対称詞のいずれかの形式があらわれている。省略不可能な連用用法とは、文脈上必須要素ということであり、話題の内容によって多少の差は生じるとしても、その差は方言差によるものではないと言える。

4-3 連体用法

連体用法の対称詞の用例数を 10 / 1～9 / なしの 3 段階に区分して、図 4 を作成した。

図 4 をみると、局地的に比較的用例が多い地点もみられるが、省略不可能な連用用法と同じくおおむね全国的に偏りがなく、二人称代名詞か非代名詞の対称詞のいずれかの形式があらわれていることがわかる。非代名詞の対称詞は 12 地点でみられ、計 23 例であった。京都府に比較的多くの用例がみられたが、京都府の談話は昔の正月の話題であり、「○○さんのところではどんな正月を過ごしたか」といった相手に発言を促す発話が多いために、用例が増えたと判断できる。

連体用法の対称詞は名詞を修飾するものであり、省略可能な用例はみられず、文

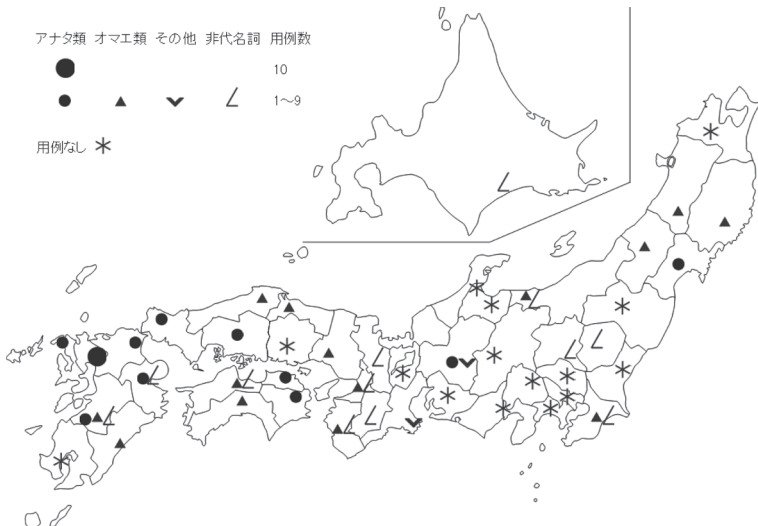


図 4 連体用法の対称詞の用例数

脈上必須要素であった。ここから、省略不可能な連用用法の対称詞と同じく、連体用法の対称詞も、話題の内容によって多少の差が生じる場合はあるが、その差は方言差によるものではないと言える。

4-4 まとめ

ここで、図1～4でみた傾向を把握し直すために、表2の代名詞類と非代名詞類のそれぞれの下位類を統合して集計し、用法ごとに代名詞類と非代名詞類を並べて示すと表3ようになる。

表3からは、代名詞類、非代名詞類ともに、独立用法以外は使用量におおきな地域差がないことがわかる。

省略可能な連用用法の対称詞は、図2でみただけでは、用例数が少ないため分布の傾向が読み取りにくかったが、独立用法の対称詞と並べてみると、省略可能な連用用法の対称詞がみられる地点には、すべて独立用法の対称詞が存在することがわかる。実際の用例をみても感じるところであるが、省略可能な連用用法の対称詞は、たまたま係り先があるだけで、働きとしては独立用法の対称詞と同様のものである可能性がある。

一方、省略不可能な連用用法と連体用法の対称詞は、形式に異なりはあるが全国的に用例がみられた。ここで表3によって、省略不可能な連用用法と連体用法の代名詞類と非代名詞類の使用地点をみると、以下のようになる。

- 代名詞類と非代名詞類を併用：青森、宮城、千葉、神奈川、新潟、石川、大阪、和歌山、広島、山口、香川、愛媛、熊本、大分
- 代名詞類のみ使用：岩手、秋田、山形、茨城、富山、福井、岐阜、愛知、三重、鳥取、島根、岡山、徳島、高知、福岡、佐賀、長崎、宮崎
- 非代名詞類のみ使用：北海道、栃木、群馬、長野、滋賀、京都、奈良

非代名詞類のみを使用している地点は近畿地方以東の地域であるが、これらの地域は、文脈上必須の用法において、二人称代名詞の使用を避けて非代名詞の対称詞を選択している可能性がある。3で、「目上の人物には二人称代名詞を使用せず、非代名詞の対称詞を用いる」という鈴木（1973）の指摘は、主に東日本方言において適用される特徴である可能性を指摘したが、『ことば集成』の親しい人同士の会話をみても、東日本では二人称代名詞の使用を避ける傾向があるようである。

表3 『ことば集成』における対称詞の地点別用例数(2)

番号	都道府県	独立用法		連用用法省略可		連用用法省略不可		連体用法	
		代名詞	非代名詞	代名詞	非代名詞	代名詞	非代名詞	代名詞	非代名詞
1	北海道	6					4		3
2	青森県	3				3	2		
3	岩手県					2		2	
4	宮城県					1	1	1	
5	秋田県					1		5	
6	山形県	2	1					1	
7	福島県								
8	茨城県		1			1			
9	栃木県		1				2		2
10	群馬県						1		1
11	埼玉県								
12	千葉県	19					1	9	1
13	東京都	2							
14	神奈川県	2	2		2	1	4		
15	新潟県	23		1		3		1	1
16	富山県	31				1			
17	石川県	22	9	1	1	1	1		
18	福井県		2			1			
19	山梨県								
20	長野県						1		
21	岐阜県							2	
22	静岡県	3	1						
23	愛知県	3				4			
24	三重県					2		4	
25	滋賀県	20					1		
26	京都府						1		8
27	大阪府	6		1		3	1	1	2
28	兵庫県	15				4		1	
29	奈良県	1							1
30	和歌山県	4	1			10	4	1	1
31	鳥取県							1	
32	島根県	1				3		2	
33	岡山県	1				1			
34	広島県	4	1			2	1	1	
35	山口県	22	1	1		8	1	1	
36	徳島県	1						1	
37	香川県	29	1			2	1	3	
38	愛媛県	6	4				1	2	1
39	高知県	23		2		4		2	
40	福岡県	47				3		3	
41	佐賀県	5		3		7		10	
42	長崎県					3		2	
43	熊本県	1					6	2	1
44	大分県	51	7		2	4	1	1	1
45	宮崎県	13		1		7		7	
46	鹿児島県								

つまり、東日本と西日本では対称詞の運用方法に地域差があり、それが対称詞の使用量の地域差を生じていると考えられる。

5 おわりに

本稿では、対称詞の用法ごとに使用量の地域差についてみてきた。独立用法の対称詞は西日本で使用量が多く、省略可能な連用用法の対称詞は独立用法の対称詞が使用されている地点で使用されていた。一方、省略不可能な連用用法と連体用法の対称詞は使用量に明確な地域差は認められなかった。対称詞の使用量の地域差は、文脈上必須ではない用法（独立用法と省略可能な連用用法）と文脈上必須の用法（省略不可能な連用用法と連体用法）でそれぞれ共通の傾向を示している。

以上により、対称詞の使用量の地域差は、独立用法、省略可能な連用用法という、省略可能な対称詞が多用される地域とされない地域の差であることがわかった。西日本方言にみられる省略可能な対称詞の多用は、それによって聞き手との親密度を高めるといふ、西日本の対人的距離の取り方の特徴を表していると考えられる。これは特に、二人称代名詞の談話機能に関わる問題であり、今後、稿をあらためて考察していきたいと考えている。

〈注〉

- (1) アナタ類は「アナタ」「アンタ」等の形式が該当する。GAJ333 図では「アンタハン」「アンタサマ」、『ことば集成』では「アータ」「アタ」「アダ」等の形式が見られた。オマエ類は「オマエ」「オメー」等の形式が該当する。GAJ333 図では「オマイサマ」「オマサン」、『ことば集成』では「オマハン」等の形式がみられた。目上の人物には二人称代名詞に敬称をつける等をして、より待遇度を高める傾向がある。

〈引用文献〉

- 庵功雄他（2001）『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
 国立国語研究所編（2001-2008）『全国方言データベース 日本のふるさとことば集成』国書刊行会
 国立国語研究所編（2006）『方言文法全国地図6』国立印刷局

鈴木孝夫（1973）『ことばと文化』岩波書店

日本語教育学会編（2005）『新版日本語教育事典』大修館書店

彦坂佳宣（2011）「二人称代名詞の分布と歴史—『方言文法全国地図』『あなたの傘』の解釈—」『国語学研究』50 「国語学研究」刊行会

（やまもと そら／本学大学院生）